

メキシコにおける文化人類学的研究の伴走支援とメキシコ国立自治大学との国際交流支援

P066

村田卓也※1 ※1 京都大学学術研究展開センター（KURA）

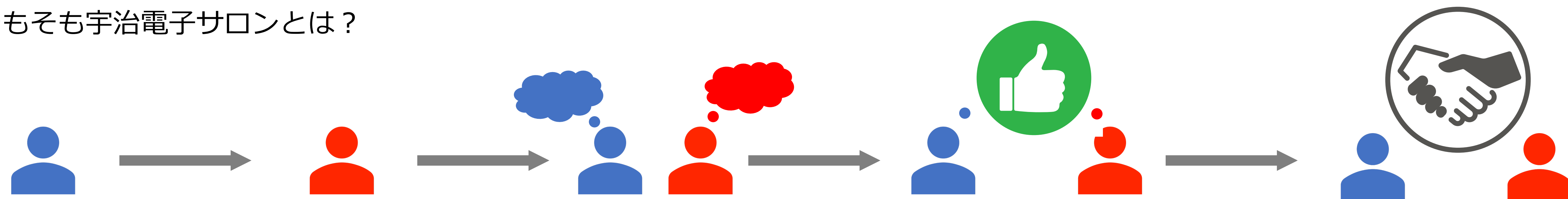
2021年第7回大会において、「個人 対 個人 の共同研究の橋渡し:宇治電子サロン」という表題でポスター発表を行った。その発表において京都大学の防災工学の若手研究者が学外若手研究者2名とメキシコにおける文化人類学的研究を展開するという異分野融合研究の個別支援スキームを紹介した。この研究者に対してはその後もこの研究会の伴走支援を継続し、2024年2月には、メキシコ人研究者も含めて、国際シンポジウムという形で一つの支援が結実した。

その一方、当該研究者はメキシコ・エルサルバドルをフィールドとした超大型国際研究費（SATREPS）の研究代表者として採択され、宇治電子サロンメンバーも国際共同研究チームに加わった。

発表者による研究支援は、研究代表者がSATREPSの研究課題を終了した後にも持続的な研究を継続することを見据えて、京都大学On-Site Laboratoryへの採択、メキシコ国立自治大学（UNAM）との研究交流協定・学生交流協定の締結、といった支援の段階に入っている。

本ポスター発表は、URA個人による一研究者の長期的伴走支援及びそのマネジメントの例ではあるが、様々な側面を持つ支援のケーススタディーとなっている。それぞれのケースに関して、あるいは総合的マネジメントに関して、参加者の皆様と議論できればと思っている。

1. 支援の背景：そもそも宇治電子サロンとは？



研究者	参加研究者	招待研究者	電子サロン	意見投合！	共同研究へ
URA	異分野の招待研究者を探索		サロン開催を オーガナイズ	サロンを ファシリテート	研究資金 獲得を支援

宇治電子サロンのメンバー（2期メンバー。1, 3期サロンは自然消滅）
京都大学 防災研究所 中野 元太 助教
都留文科大学 文学部 山越 英嗣 准教授
専修大学 国際コミュニケーション学部 小林 貴徳 准教授

宇治電子サロンの開催
メキシコの文化人類学的研究を異分野研究者の交流をベースに推進
2021年1月～2024年3月（およそ3ヶ月に一度開催）
基本オンライン開催、2回オンサイト開催（京都）

2. 支援の結実（1）：京都大学分野横断プラットフォーム事業への採択

京都大学分野横断プラットフォームとは？

学際研究のアイデアがある研究者が、研究チームやネットワークを形成したり、課題に取り組む道筋をつけたりするために、研究会やワークショップを開催しようというとき、これを資金面やソフト面から支援する学内ファンド。

分野横断プラットフォームの成果（1）

日墨国際オンラインシンポジウム開催（2024/2）
事前申込者約1,300名、当日参加者のべ948名



分野横断プラットフォームの成果（2）

日西二カ国版電子ブック作成
<https://u.kyoto-u.jp/3yдах>



3. 支援の結実（2）：SATREPSへの採択

SATREPSとは？

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム

- SATREPS（サトレプス）地球規模課題の解決に向けた日本と開発途上国との国際共同研究を推進するプログラムです。
- 研究期間5年間、研究費5億円。



SATREPS支援の成果

宇治電子サロンの成功を受けて、電子サロンのメンバーである、山越准教授と小林准教授をSATREPSのメンバーに追加できたこと。

5. 支援中：京都大学・UNAM間学術交流協定（MOU）締結へ

- UNAMとの持続的な研究・教育交流を行うためにMOU /SEA締結を目指す。
- 発表者は、締結のプロセスに積極的に関与することで貢献する。

京都大学学術研究展開センター（KURA）では、新たに10名程度のURAを募集しています！
<https://u.kyoto-u.jp/0tkpr>



6. まとめ

- 2021年1月から現在まで長期にわたって一人の有望な若手研究者を伴走支援してきた。これは言い方を変えれば、**若手研究者が大成していく個別プロジェクトをマネジメントしている**ことに他ならない。
- 伴走支援しながら、分野横断プラットフォーム、SATREPS、On-site laboratoryという大小様々な外部資金等の申請、採択に貢献し、今はMOU締結に向けた貢献をしている。
- 今後もUNAMとの持続可能な研究交流の実現に貢献すること、またこの若手研究者がさらに大成することを支援したい。



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学 学術研究展開センター
Kyoto University Research Administration Center